

2024年5月14日  
13時～15時30分  
ウェブ開催

## 2024年度教宣部長・担当者会議

【日時】 2024年5月14日（火）13:00～15:30

【Zoom ミーティング URL】

<https://us02web.zoom.us/j/85304886295>

ミーティング ID: 853 0488 6295

パスコード: 904313

※「ビデオ」を「オン」、「マイク」は「ミュート」でご参加ください。

※名前を「00 県名名前」に変更をお願いします。（例 50 本部羽鳥）

全日本自治団体労働組合

# 次 第

1. 開会(13:00) 八巻 由美 総合企画総務局長

2. 本部からの報告と提起

(1) 本部の活動状況報告

(2) 本部からの問題提起

本部報告と提起に関する質疑・意見交換

休 憩(14:00～14:15)

4. 県本部の活動報告

(1) 群馬県本部 真下亮祐さん

群馬県本部の機関紙活動(単組指導・単組支援)

(2) 神奈川県本部・茅ヶ崎市職労 小野文彰さん

TUNAG を使ったコミュニケーション強化(仮)

県本部報告への質問・意見交換

5. まとめ

(閉会 15:30)

## 2024 年度教宣部長・担当者会議

### 本部からの報告と提起

#### 1. 本部の活動状況

##### (1) 機関紙「じちろう」

機関紙「じちろう」はタブロイド版・2 ページを基本に、2023 年 4 月から、「毎月 1 日・15 日発行」（月 2 回）に変更しています。また新年号を全組合員配付としました。春闘号は従来から全組合員配付です。

新採特集号が従前の号外を今年度は通常配付とし、既存の組合員と新採職員の双方を対象とした内容に変更しています。

##### (2) 機関誌「自治労通信」

経費節減のため、2023 年夏号（7 月）を最後に印刷版の発行を取りやめ。2023 年 11 月からはデジタル版/隔月発行としています。

##### (3) デジタルメディアでの情報発信

自治労公式ホームページは 2022 年 9 月からリニューアルしました。集会、交渉などの情報を随時、Facebook と Twitter、YouTube でも発信しています。また、2024 年 4 月からは「じちろうモバイル」を組合員限定ホームページとし、機関紙にパスワードを掲載し周知・利用促進を図っています。

##### (4) 写真・イラスト・記事素材等の提供

産別ネット・じちろうネット上に「教宣ポータル」「キャラクター等素材集」のページを設け、自治労本部の機関紙誌のデータ、各県本部の機関紙の PDF ファイル、本部が撮影した集会・交渉等の写真、県本部・単組の機関紙ビラやイラストに使用できるイラスト、キャラクター、ロゴなどを掲載し、適宜、更新しています。新情報を掲載した際には「じちろうネット」の掲示版で県本部・単組にお知らせを発信しています。ただ、ページ構成が無秩序で利用しづらい点は改良課題です。

##### (5) 情宣セミナー・県本部情宣活動支援

2024 年度の情宣セミナーはウェブを活用した初級講座運営を 2 回開催しました。費用をかけずに気軽にオンラインで受講できることで、小規模単組からも参加者が増えています。6 月には経験者対象の対面講座を開催します。印刷媒体の講座は当面、初級編と経験者編の 2 本立てとします。

動画コンテンツの作成講座も県本部等の要望があることから、今後検討していきます。

県本部の情宣セミナー開催の支援、機関紙の添削を対象とした県本部支援事業は、わずかな利用にとどまっていますが、当面継続するとともに、支援メニューを機関紙（紙媒体）以外にも拡大する方向で検討し、新年度から具体化します。意見・ご希望をお聞かせください。

#### (6) 各種コンクール

2023年度は7月に機関紙コンクールを開催しました。2024年度は「文芸・写真・まんがコンクール」の開催年です。文芸会議を解散し、文芸コンクール運営委員会に改組しました。文芸コンクールへの関心喚起のため、作家の佐原ひかりさんのオンライン公開学習会を開催しました。まんが集団の今後の活動については、電子媒体でのイラストの提供など、関係者で議論を進めています。

## 2. 県本部の情報発信活動の調査から

前回に続き、県本部の機関紙を始めとする情報発信活動の状況の一端を把握するため簡単な調査を行いました。ここから以下の特徴を指摘し、課題を整理してみます。

#### (1) 県本部機関紙の編集体制と定期発行（別表1）

今回の県本部の活動状況の調査結果は、別紙集約表の通りです。

なお本部に県本部機関紙を毎号50部ずつ送付いただき、本部から各県本部に提供するとともに、産別ネット「教宣ポータル」に、それぞれの県本部機関紙をKintoneを通してPDF形式で貼付していただくようお願いしているところです。

#### (2) 単組の機関紙活動の指導について（別表2）

今回の調査結果（別表2）から、単組の発行する機関紙を県本部で集約し単組間で共有を図ること、単組の機関紙発行状況を把握することが、必ずしも十分になされていない現状が分かります。これらの取り組みは県本部が単組の機関紙活動状況を把握し、適切な支援、指導を行う上での基礎となることから、改めて取り組みの必要性を強調しておきます。また以前は開いていた情宣セミナーが休止中の県本部が散見されるなど、克服すべき課題が確認できます。

第16回自治労組織基本調査によれば、機関紙を発行している単組は59.0%にとどまっています。単組の機関紙発行は、単組活動の基礎となるものです。県本部でも情宣セミナーの開催や機関紙コンクールの実施などを通して、単組の機

関紙活動を後押ししていくことが求められています。

### (3) SNS 利用の状況 (別表 3)

県本部としての利用状況に前回調査から大きな変化は見られません。

第 16 回自治労組織基本調査によれば、SNS で情報発信を行っている単組は全体の 7.0% であり、社会一般の普及・関心度に比して著しく遅れています。その要因には、積極的活用のイメージ(目的)が描き切れていないことや、担当者配置の課題などがあると思われます。また、実施したものの「思うように組合員がフォローしてくれない」等の課題も指摘されています。有効な情報発信方法について、事例研究や経験交流を深めることが必要です。

なお本部では、連合のものに準じて、Facebook と Twitter の運用について、別紙の「投稿基準モデル案」を作成しました。ご活用ください。

### (4) 本部提供素材、新採対策の情報宣伝物について (別表 4)

本部で作成し提供している写真、イラスト等の素材、新採対策の情報宣伝物への評価は、全体としては「普通」との評価かと判断しますが、自由意見で出されたご意見、ご提案も含めて本部として受け止め、今後提供する宣伝物等の質の向上、提供体制の改善に努めていきます。

新採教宣物については、そのニーズを肯定する評価の一方、新採説明会などで類似の配布物に埋没する等の問題指摘もあります。きちんとターゲット(新採職員)に組合の意味を伝える効果的な宣伝物の活用方法を、本部・県本部が単組に提起することが必要です。本部は「必要な宣伝物を・必要な単組に・必要な数を」提供することを基本としますので、県本部は単組ニーズの把握と本部への連携、単組への活用方法の具体的な指導をお願いします。

本日の会議でも、これらの情報宣伝物の必要性の有無、使い勝手の良し悪しと改善策などについて、忌憚ないご意見をお聞かせください。

## 3. 本部からの問題提起

以上のことを踏まえ、本日の討議のため以下を提起します。

### (1) 県本部・単組の機関紙活動強化のためセミナー等を充実させます

単組の情報宣伝活動を強化します。単組の情報発信なくしては、組合員は組合の意義を理解することはできませんし、単組機関紙の機能を県本部や本部の機関紙で代替することはできません。本部は、情宣セミナーや機関紙素材の提供を強化し、単組の機関紙活動の技術強化のための支援に努めます。情宣セミナーは以下の方向性での開催とします。

①初級セミナー（「Wordで作る新聞」および「パワーポイントで作るビラ」）  
主として単組等で手作りの新聞、ビラを作成する人を対象に、基礎的技術の習得を目的に開催。完全リモート講習・1回半日・年2回開催します

②中級セミナー

主に県本部・大規模単組等で外注での機関紙を作成する担当者を対象に、技術向上と情宣活動の進め方の議論深化を目的に開催。対面・1泊2日・年1回開催します。

また、機関紙作成技術の研さんの場として機関紙コンクールを実施します。

③動画コンテンツ作成セミナー

短い動画による情報宣伝活動のために、作成手法の基本を学ぶセミナーの開催を検討します。

## **(2) SNS利用の好事例の共有をはかります**

機関紙という紙媒体による情報発信に加え、急速に社会に普及しているSNSの影響力を無視することはできません。安価であること、物理的距離の障壁がなく、発信と同時に全組合員に情報伝達ができることは大きなメリットです。各種SNSの特性を理解し、労働組合活動に適した情報発信ができるツールを選択することが大切です。当面、利用者が全世代を通して最も多く、情報伝達の対象範囲を限定しやすいLINE公式アカウントを中心に利用を進めることを基本方針とします。本部は、安全で効果的なSNS利用の運用方法の考え方を示すとともに、効果的な活用事例の共有と経験蓄積を図ります。

## **(3) 機関紙「じちろう」の抜本改革、「自治労通信」の廃止・統合、人勧特集号の給料表掲載の取りやめ**

現在の機関紙「じちろう」(タブロイド版/2ページ/タテ組/スミ/月2回発行)を、A4(中折)/8ページ/ヨコ組/カラー/月1回発行)に移行する方向で検討中です。実施予定は2025年1月とします。これに伴い、自治労通信デジタル版を廃止し、連載記事のコンセプトを機関紙「じちろう」に移管・統合する方向性で検討します。

人勧特集号については、給現在、主要な給料表6表を一律に通常部数配付しており、送料を含めた経費は約1,000万円となっていることから、料表の掲載を取りやめ、給料表は「じちろうモバイル」の利用を呼びかける方向を検討します。このことによる県本部等の人勧情報提供の対応、単組への影響等について、この会議で、是非ご意見をお聞かせ願います。

#### 4. 県本部の取り組み報告

今回の会議では2つの県本部の活動を報告していただき、情報共有する中で、それぞれの県本部で優れた取り組みに学び、参考としていただきたいと思います。また自治労全体で、今後の情報宣伝活動で重視すべき課題について理解を深めたいと思います。

(1)群馬県本部 真下亮祐さん

群馬県本部の機関紙活動(単組指導・単組支援)

(2)神奈川県本部・茅ヶ崎市職労 小野文彰さん

TUNAGを使ったコミュニケーション強化(仮)

### <添 付 資 料>

○県本部調査集約表 (EXCEL シート) **5月10日現在**

別表1 2024年度 県本部教宣担当者名、機関紙発行の状況

別表2 単組指導の体制

別表3 デジタルメディア (ウェブサイト、SNS) の活用

別表4 本部作成情宣物の評価

別表5 主な自由記載意見 (要旨)

\*5月10日時点の報告です。報告が間に合わなかった県本部について情報を追加し、後日に完成版を配布します。

○単組・県本部用 Facebook 投稿基準 モデル

○単組・県本部用 twitter への投稿基準 モデル

○県本部報告資料

群馬県本部

神奈川県本部 ※当日画面共有

2024年度 県本部教宣担当者名、機関紙発行の状況

別表1

県本部	担当役員	担当書記	体裁	発行頻度	作成方法
北海道	高田将平(教宣部長)	中村香菜	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
青森	奥田博英(書記長)	複数担当性	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
岩手	-	三浦章宏	タブロイド版/タテ	不定期	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
宮城	岡本雄大(教宣部長)	菊池涼太	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
秋田	佐藤学(書記長)	川又隆史	タブロイド版/タテ	月2回	記事から組版まで内部/印刷は外注
山形	渡部貴之(執行委員長)	安藤寛菜	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
福島	鈴木茂(書記長)	-	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
新潟	前田光洋(教宣部長)	加藤 謙	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
群馬	真下亮祐(書記次長)	磯部雄太	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
栃木	大関寛泰(書記次長)	佐々木圭子	A4版/タテ/中折	月3回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
茨城	生井澤律子(書記長)	小林弘美	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
埼玉	前原朝子(委員長)	複数担当性	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
東京	須崎崇文(書記次長)	複数担当性	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
千葉	高橋智明(書記長)	西ヶ谷悠太	A4版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
神奈川	武部佑司(副委員長)	浪川 勇	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
山梨	石原 皓(書記次長)	-	A4版/ヨコ	不定期	記事から印刷まで全工程を内部作成
長野	山田和敏(総務報道局長)	複数担当性	B4版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
富山	田中実(書記長)	酒井雄司	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
石川	糸崎弥央(書記長)	大壁登紀子	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
福井	中垣内雅之(執行委員)	複数担当性	A4版版/タテ	不定期	記事から印刷まで全工程を内部作成 (新年号/大会号はタブ/タテ、組版まで内部、印刷外注)
静岡	大隅 光(執行委員)	山田克彦	その他	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
愛知	入江義寛(特執)	松本高德	B4版/8タテ	月1回	記事から印刷まで全工程を内部作成
岐阜	中山順二(副委員長)	輪番制	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
三重	宮脇拓也(副委員長)	松井 涼	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
滋賀	川村幸久(書記次長)	頼富敦子	タブロイド版/タテ	不定期	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
京都	森本尚秀(副委員長)	中原慎太郎	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
奈良	桐木正明(委員長)	西窪敏和	タブロイド版/タテ	月2回	記事から組版まで内部/印刷は外注
和歌山	上田洗大(書記次長)	増田真治	タブロイド版/タテ	月1回	記事から印刷まで全工程を内部作成
大阪	国眼恵三(書記長)	武田 和	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事のみ内部、レイアウト以降外注
兵庫	秦信昭(教宣部長)	藤田正也	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
岡山	柴田真弘(書記長)	秋久直寛	タブロイド版/タテ	月1回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
広島	小迫俊宏(書記長)	広増加奈子	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
鳥取	稲田いずみ(教宣部長)	鈴木結加	タブロイド版/タテ	-	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
島根	木下幹也(書記長)	谷口 悠	タブロイド版/タテ	月2回	記事から組版まで内部/印刷は外注
山口	古川俊(書記長)	山口容子	A4/ヨコ組み/中折り	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
香川	久保武士(副委員長)	輪番制	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
徳島	鈴木圭吾(書記長)	山田みゆき	タブロイド版/タテ	月1回	記事から組版まで内部/印刷は外注
愛媛	池川慎也(書記次長)	宇都宮理	B4版/タテ	月1回	記事から印刷まで全工程を内部作成
高知	山崎幹生(書記長)	山内美保	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
福岡	白谷義彦(書記長)	森厚志	A4版/ヨコく/中折	月3回以上	記事から組版まで内部/印刷は外注
佐賀	永石亀(組織教宣局長)	複数担当性	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
長崎	山下貴幸(執行委員)	-	B4版/タテ	月1回	記事のみ内部、レイアウト以降外注
大分	黒木崇裕(総務教宣部長)	複数担当性	B4版/ヨコ	月1回	記事から組版まで内部/印刷は外注
宮崎	伊達憲司(書記長)	-	タブロイド版/タテ	月2回	記事からレイアウトまで内部/組版・印刷は外注
熊本	森友紀(書記次長)	島崎 真	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事から組版まで内部/印刷は外注
鹿児島	浮田浩樹(教宣部長)	高橋新吾	タブロイド版/タテ	月3回以上	記事から組版まで内部/印刷は外注
沖縄	知花史直(教宣部長)	大城優紀	A4/タテ	月2回	記事から印刷まで全工程を内部作成
社保労連	佐藤進(企画組織局長)	-	タブロイド版/タテ	不定期	記事から組版まで内部/印刷は外注

単組指導の体制

別表2

県	本	部	単組機関紙の 収集・共有	単組機関紙の 発行状況等の把握	セミナー開催	機関紙コンクール
北	海	道	×	○	休止中	○
青		森	×	×	×	×
岩		手	○	×	×	×
宮		城	○	×	休止中	×
秋		田	×	×	休止中	×
山		形	×	×	×	×
福		島	×	×	○	○
新		潟	○	×	休止中	×
群		馬	○	○	○	○
栃		木	○	○	○	○
茨		城	×	○	×	×
埼		玉	○	×	×	×
東		京	○	○	×	×
千		葉	○	×	○	×
神	奈	川	×	×	休止中	×
山		梨	…	○	×	×
長		野	○	×	×	×
富		山	×	○	×	×
石		川	○	×	休止中	×
福		井	×	○	×	×
静		岡	○	×	休止中	×
愛		知	○	×	×	○
岐		草	○	○	×	×
三		重	×	×	休止中	×
滋		賀	休止中	○	○	×
京		都	○	○	×	×
奈		良	×	×	×	×
和	歌	山	○	×	×	×
大		阪	×	×	×	×
兵		庫	○	×	×	×
岡		山	×	○	×	×
広		島	○	×	×	×
鳥		取	×	×	×	×
島		根	×	×	×	×
山		口	×	○	×	×
香		川	○	×	○	×
徳		島	×	○	×	×
愛		媛	×	○	休止中	○
高		知	○	×	×	×
福		岡	×	×	○	×
佐		賀	×	×	×	○
長		崎	○	○	休止中	○
天		分	×	×	休止中	○
宮		崎	×	×	休止中	×
熊		本	×	×	○	×
鹿	児	島	○	○	○	×
沖		縄	×	×	×	×
社	保	労	○	○	×	×

デジタルメディア（ウェブサイト、SNS）の活用

別表3

県	本	部	HPの有無	SNSの利用	機関紙との担当分け
北	海	道	有	FB/Twitter	兼任
青		森	無	無	兼任
岩		手	無	無	無
宮		城	無	無	無
秋		田	無	無	兼任
山		形	無	Youtube	-
福		島	有	無	兼任
新		潟	有	Youtube	無
群		馬	有	無	別担当
栃		木	有	無	兼任
茨		城	有	FB/LineWorks	兼任
埼		玉	有	FB	兼任
東		京	有	FB	兼任
千		葉	有	無	兼任
神	奈	川	有	F/T/Y/その他	兼任
山		梨	有	LineWorks	兼任
長		野	有	FB/YouTube	兼任
富		山	無	無	無
石		川	無	LINE/Facebok	兼任
福		井	有	Facebok	兼任
静		岡	有	無	無
愛		知	有	FB/LineWorks	兼任
岐		阜	有	無	-
三		重	有	FB/LineWorks	兼任
滋		賀	有	FB	別担当
京		都	有	無し	別担当
奈		良	有	FB/Twitter/LINE	別担当
和	歌	山	有	無	無
大		阪	有	LINE	別担当
兵		庫	有	FB	別担当
岡		山	有	FB	兼任
広		島	有	LineWorks	別担当
鳥		取	有	無	兼任
山		根	有	FB/Twitter	兼任
香		口	無	無	無
徳		川	無	FB/YouTube	兼任
愛		島	無	無	無
媛		媛	有	無	無
高		知	有	FB	別担当
福		岡	有	Facebok	兼任
佐		賀	有	無	無
長		崎	無	無	兼任
天		分	有	Twitter	兼任
宮		崎	有	FB/LineWorks	兼任
熊		本	有	FB	兼任
鹿	児	島	有	無	無
沖		縄	有	無	兼任
社	保 労	連	有	無	無



## <主な自由記載意見（要旨）>

別表5

### ○本部の新採教宣物について

- ジェネレーションパズルは、商品（治一郎のバウムクーヘン）も含めて面白かった。
- 柔らかく親しみやすいwith Youに、詳しい説明が掲載されているWhats自治労など、バランスがよいと思います。
- 『What's自治労』がリニューアルして、より読みやすくなったと好評です。
- 機関紙新採特集号について「電話の内容がわからない」の欄で『繰り返しピンチにさらされることで強くなります』や「かつての新入組合員の皆さんへ」の欄で『Z世代恐るるに足らず』とした表現はどちらも主旨は分かるのですが、新採にとって余計な不安が生まれたり、Z世代が変わり者であるかのような捉えられ方をしないか不安になりました。例えば「困ったら遠慮なく先輩に相談しよう」のような表現をすると読み手の新採は安心するのではないのでしょうか。
- 新採説明会での配布物がおおいので、新採特集号については優先順位が低く配布していない単組がある。
- 写真の構図が微妙な時がしばしば。

### ○本部の情報宣伝活動への意見、県本部の情宣活動の課題

- 投稿や動画編集のコツなどが学べるSNS活用セミナーがあれば参加したい。
- 機関紙の内容が報告記事に偏りがちなので、内容をもっとバラエティー豊かにし、組合員の興味・関心を惹けるような構成にする必要がある。
- 機関紙添削について、支援事業として対応いただいたことは有難い。また、支援事業の試行段階で添削もしていただき、作成するうえで勉強になりました。
- 能登半島地震発災以降、機関紙等の配付が困難となり本部のご協力をいただき県本部公式LINEを開設することができました。心より感謝申し上げます。現在は、能登地区単組のみ、単組ごとのQRコードにてお友達登録への周知を行っているが、登録数に苦戦している。今後は、全単組にQRコードを周知する予定。
- SNSはできれば新設したいが、コンテンツの選定、担当者のスキル、費用対効果を考えるとハードルが高いと感じる。
- 情宣セミナーは対面形式がよい。セミナー費用助成は開催できていないが、ありがたいので継続をお願いしたい。

### <主な自由記載意見（要旨）>

- 組合離れが進んでいる今、情報宣伝活動も転換期を迎えているはずですが。しかし、情宣セミナー、県本部情宣活動支援事業とも、いわゆる「機関紙」の発行に係る実務ノウハウに終始しており、インターネットすら一般的でなかった時代と根本的には変わっていません。『機関紙は組合費の領収書である』という言葉に代表される旧態依然とした運動の枠組みを脱し、時代に即した労働組合の情報宣伝活動を新たに模索することが求められるフェイズであることは、減り続ける組合員数から自治労に関わる多くの方が感じているはずです。しかし、単組や県本部はそもそも組織規模が小さいため、目の前の活動に終われ、その検討をする余裕すら残されていません。県本部・単組の考える責任を放棄するつもりはありませんが、上部団体たる本部にこそ、時代に即した変化を模索し、変化に向けた選択肢を各県本部に「セミナー」などの形で提供し、「活動支援」として具体的変化を推進いただきたいと思います。現行のセミナーと支援事業をどれだけ続けても、例えその内容が全県本部・全単組に完全に行きわたったとしても、組合員の減少に対して何のインパクトも持たないのではないのでしょうか。自身の反省も込めて、今の自治労の活動は、そのすべてが「組合員減少の食い止め」につながるものであってほしいと思います。
- 組合側が伝えたい情報を組合員に受け取ってもらうには、「見る側」の視点が重要だと考えています。しかし、私たち組合の発信「発信する側」の視点だけで構成されている気がします。紙媒体かWEB媒体か以前の問題で、まずは発信する内容を考えることが先ではないのでしょうか。情報が少なかった時代のやり方のままでは、情報が溢れる今の時代には対応できないと思います。
- 県本部として「情報宣伝活動」そのものが形式化し、ルーティンを回すことに終始してしまっています。「何のために情宣活動を行うのか」そして「その目的達成のために最適な手段をとっているのか」の検討が不十分です。新しい施策も取り入れています。財政難による人員不足などから、拡充が必要と理解しつつもできないジレンマに陥っています。
- 機関紙添削をしていただきました。レイアウトの改善案などもあり、疑問に思っていた昔のスタイルから転換するいいきっかけになったと感じました
- 本部の活動を見ると情報宣伝活動を重要としていることが伺える
- SNSなど情報発信に対する意識が県本部・単組の役職者のなかで薄く感じる。役職者の多くはツールや時間、人員リソースを現状維持で進めようとしたり、情報発信のリスクに意識が行き、炎上を恐れすぎる傾向にある。情報発信や情報共有の取り組みが進まず、運動の停滞が起きているように感じる。本部のノウハウの伝授や補助を強化していただきたい。
- 『じちろう』発行のタイミングで掲示板に本部からお知らせが載るのが好評です。文章が面白く、記事を読むことにも繋がっているようです。これからも継続してもらえるとありがたいです。
- 情報や組合員の求心力となるSNSの活用方法を本部が模索し、情報をいただけたらありがたいです。業務の効率化についても同じであるが、県本部担当では忙しさにまかせてアップデートする余力がありません。
- 県本部体制の問題もあり、独自でのセミナー等が開催できていません。そのような中、本部で毎年セミナーを開催していただいていることは県本部としても助かっています。また、ウェブ開催により単組から参加しやすくなっていますので、今後も継続して実施をお願いします。
- 年度途中ではなく、当初もしくは事前に助成事業があることを教えていただけると企画をする際大変助かります。

### ＜主な自由記載意見（要旨）＞

- SNSの活用の課題があります。若年層向けにSNSでの発信というのは確かに重要だとは思いますが、発信しても「見ない（フォローしない）」という意見が現実に出ています。理由として「フォローを他人から見られた時に、自分がそのアカウントをフォローしていることを知られたくない」「職場の人にアカウントを知られることになりそう」など、内容云々よりもSNSの根本的な理由が挙げられており今後の動き方に苦慮しています。また、取り組みを推進していくのに関心が薄い組合員への周知が重要かと思いますが、この結果から若年層に対するSNSの効果は大きく見込めないのでは感じるようになりました。（全くないわけではないとは思いますが）もっと関心の薄い若年層視点に立ち、効果的な策を練っていかなければならない（となるとやはり紙媒体？）と思っておりますが、上記についての本部もしくは他県本部の見解や取り組みがあれば教えていただければと思います。
- 情宣担当者育成のセミナー等の開催の際には、講師派遣等、相談させてください。
- 写真の撮影方法、ばえる撮り方などのセミナーを期待します。
- 機関紙添削は改善点がはっきり示され、かなり役に立ったし、自信にもつながった。今後もぜひお願いします。
- ポータルのコンテンツが充実してきて便利になってきている。
- 教宣に特化した役員（集中できる役員）がいないので、深みのある記事作成まで手を回しづらい。組合員に読んでもらえるよう、コラムやトピックを散りばめながら、メインの記事に関心がいくような仕掛けが必要かと思う。
- 情報宣伝セミナーをWEBで行うのは無理があるように感じる。

## 単組・県本部用 Facebook 投稿基準 モデル

Facebook について、下記のとおり投稿に関する基準を設け、適用する。

### I. 目的・ターゲット

〇〇（組織名）の取り組み、考えを広く社会へ発信することを目的とする。組合員を含む、広く国民をターゲットとし、〇〇を身近に感じてもらうよう、わかりやすい言葉で呼びかけるように発信する。

### II. 管理者

管理・投稿は××（部署名または役職名）が担当する。

### III. 投稿内容

#### 1. 各種告知

発行物、イベント案内、応募、労働相談、キャンペーン、テレビ出演、雑誌・インターネット等への掲載等

#### 2. 各種取り組み・考え方の周知

日常活動、会議、集会、街頭行動、他媒体で〇〇（組織名）が取り上げられているもの等の中から、広く社会に周知すべきもの

#### 3. 他組織の投稿内容紹介（シェア、コメント付きのシェア）

#### 4. 選挙関係

#### 5. その他必要と判断されたもの

### IV. 投稿・拡散ルール

#### 1. 構成

タイトル、本文、画像・動画、リンク付きの場合はサムネイル

（1）タイトル：【 】で括る（タイトルの後は改行）

（2）本文：読む人の共感が得られるよう、呼びかけるような文章とする。

（3）画像・動画：極力、写真・動画を添付する。画像形式は jpg、png、gif、tiff 形式のいずれか、また動画は MOV、MP4 のいずれかとする。公序良俗に反するものは不可。〇〇に関係しない第三者が特定できるものは相手の承諾がない場合は使用不可。（集会・会議参加者を除く）

（4）リンク誘導：事前にリンク先を確認し、サムネイルを付ける。サムネイル

がない場合は関係画像を添付する。

## 2. 投稿

投稿は基本的に××が行う。××が取材しない各種行事等は担当部署（担当者）が本文を作成し、××が投稿する。できるだけタイムリーに投稿する。

## 3. 拡散

投稿する内容を主に担当する役職員は、拡散に協力する。集会や会議等では参加者に投稿を周知し、拡散協力を口頭や資料等を通じて呼びかける。

〇〇の役職員全体で拡散に協力する。

## 4. コメントへの対応

基本的にコメントには対応しない。誹謗中傷が激しい書き込みは、コメントを非表示にする。必要に応じて、ブロックにより書き込みできないようにする。

## V. 広告

基本的には出稿しないが、必要に応じて検討する。

以上

## 単組・県本部用 twitter への投稿基準 モデル

twitter について、下記のとおり投稿に関する基準を設け、適用する。

### I. 目的・ターゲット

〇〇（組織名）の取り組み、考えを広く社会へ発信することを目的とする。組合員を含む、広く国民をターゲットとし、〇〇を身近に感じてもらうよう、わかりやすい言葉で呼びかけるように発信する。

### II. 管理者

管理・投稿は××（部署名または役職名）が担当する。

### III. 投稿内容

#### 1. 各種告知

発行物、イベント案内、応募、労働相談、キャンペーン、テレビ出演、雑誌・インターネット等への掲載等

#### 2. 各種取り組み・考え方の周知

日常活動、会議、集会、街頭行動、他媒体で〇〇（組織名）が取り上げられているもの等の中から、広く社会に周知すべきもの

#### 3. 他組織の投稿内容紹介 (RT やいいね、引用 RT)

#### 4. 選挙関係

#### 5. その他必要と判断されたもの

### IV. 投稿ルール

#### 1. 掲載ルール

文章は 140 字以内とする。

動画はファイル形式 MOV または MP4 とする。ファイルサイズは 512MB まで、動画の長さは 2 分 20 秒までの制限あり。公序良俗に反するものは不可。連合に関係しない第三者が特定できるものは相手の承諾がない場合は使用不可。

#### 2. 拡散

投稿する内容を主に担当する役職員は、拡散に協力する。集会や会議等では参加者に投稿を周知し、拡散協力を口頭や資料等を通じて呼びかける。

〇〇の役職員全体で拡散に協力する。

### V. 広告

基本的には出稿しないが、必要に応じて検討する。

以上



# 群馬県本部の機関紙活動 (単組指導・単組支援)

2024.5.14 (火) 県本部教宣部長・担当者会議 (WEB)  
自治労群馬県本部 教育宣伝部 真下 亮祐



1

## 群馬県本部の目標

- 第1段階：全単組で機関紙を発行する
- 第2段階：全単組で月1回以上の定期発行を行う
- 第3段階：組合員に読んでもらえる機関紙を発行する



●教宣対策委員会の到達目標 (2023.9.15~16 第95回定期大会議案より)  
第5次組織強化・拡大のための推進計画 (2023.10~2027.09)

※機関紙について記載のある部分を抜粋

2. 組織強化について・・・単組自身の組織力の強化=県本部機能の強化

(1) 単組機能の強化

④ 組合員への情報提供と組合活動の見える化

組合員に対して、適切かつ迅速に情報提供します。県本部貸与のタブレットの活用や、「じちろうネット」からの自治労本部情報の展開などを行います。情報伝達的手段として、紙の機関紙の果たす役割や効果はまだまだ大きなものがあります。『組合費の領収書』である機関紙の月一回の定期発行を進めます。その際、県本部の実施する「機関紙セミナー」「機関紙コンクール」を活用し、人材育成と技術の向上と継承を進め、また組織だけでなく、青女部、現業などでの発行も追求します。なお、紙媒体による機関紙を発行しない場合でも、SNSやメルマガなどの活用も検討し、組合活動の見える化を進めます。

2

## 教宣対策委員会の活動

### ●構成

委員14名（県本部中執5名、評議会選出9名）で構成。中執、評議会からの委員選出のため、基本的には1～2年で交代する委員が多い。

### ●会議等

年3～4回。会議とは別でセミナー運営・コンクール審査あり。

### ●主な活動

- ① 単組機関紙発行状況調査
- ② 機関紙セミナー
- ③ 機関紙コンクール



3

## 教宣対策委員会の活動 ①単組機関紙発行状況調査

目的：機関紙の編集体制、発行状況、掲載内容など把握。機関紙を発行できていない単組へのアプローチの検討材料として活用し、到達目標の第1段階である全単組機関紙発行に向けて活用（▶機関紙セミナー内容等に反映）

時期：4月～5月

機関紙の発行状況（2023年度調査）



4

## 教宣対策委員会の活動 ②機関紙セミナー

目的：全単組での機関紙発行、単組の発行サポートを目指し、委員会の中で企画を検討し運営。コロナ禍以前は年に2回開催。2020年・2021年は未開催だったが2022年から年1回で再開。



▲和気あいあいと日頃の悩みや工夫などを共有しあう参加者

昨年：2023年8月5日（土）9:30～12:30

参加：12単組30名

内容：①講義「機関紙の重要性と可能性」 講師 真下亮祐  
②単組報告（3単組：機関紙コンクール上位入賞単組）  
③意見交換・質疑応答

補足：2023年度は、「身近な機関紙担当者から話を聞きながら編集に関わる人同士で意見交換したい」との委員意見・アンケート結果から内容を設定。

▼講義内容についての質疑応答の様子



◀単組報告を行う前橋市職労書記長

5

## 教宣対策委員会の活動 ③機関紙コンクール

目的：単組における教宣活動の活性化と支援を目指し実施。

表彰：「基本組織の部」、「補助機関の部」、「ビラ・速報・闘争期の部」の3部門で、最優秀賞・優秀賞・佳作・努力賞の4賞を表彰。

賞金：最優秀賞10,000円、優秀賞7,000円、佳作・努力賞5,000円



▲県本部定期大会で賞状を受け取る洪川市職労執行委員長（左）

昨年応募数：基本組織の部 16作品  
補助機関の部 15作品  
ビラ・速報・闘争期の部 7作品

各部門の最優秀賞は県本部大会において賞状授与している。

6

# 成果

## ●単組の機関紙の質の向上

- ・自治労本部 第22回機関紙コンクール  
 自作の部：入 選 安中市職労・前橋市職労  
                   努力賞 高崎学校臨囑労組  
 外注の部：努力賞 群馬県職労

- ・コンクールを意識した改善や創意工夫

## ●単組同士の切磋琢磨

- ・機関紙担当者同士が意識しあうことでの相乗効果

## ●委員の知識や意識の向上

- ・他単組の機関紙に触れることで学びを得る

### ◆2023群馬県本部機関紙コンクール入賞単組

選出	基本組織の部	補助機関の部
最優秀賞	渋川市職労	安中市職労青年部
優 秀 賞	<b>安中市職労</b>	桐生市労連ユース部
佳 作	<b>群馬県職労</b>	高崎市囑託職員労組
努 力 賞	高崎市職労	<b>高崎学校臨囑労組</b>

※ 前橋市職労は2022最優秀賞で翌年は授賞対象外。



7

# 課題



## 入賞単組の固定化

- ▶ もともと力を入れていた単組が伸びる＝だいたい入賞する単組は同じ
- ▶ 紙面クオリティや定期性が重視される審査方法のままでよいのか？



## 発行なしを発行に繋げる難しさ

- ▶ 「必要性」を感じていないから発行していない
- ▶ 「人手」が足りないから発行できない
- ▶ ノウハウだけでなく、必要性の理解や負担感のない発行に向けた支援が必要



## コンクール審査の負担感

- ▶ 審査にかかる労力が大きい（事務局の基礎点審査・委員の印象点審査）
- ▶ 審査方法の簡素化により見えなくなってしまうものがある

8